

病理学講座器官病理学 教授就任のご挨拶

病理学講座器官病理学 教授 かわばた しげる
川畑 茂

2025年3月1日付けで病理学講座器官病理学の教授を拝命いたしました、川畑茂と申します。私は1996年に長崎大学医学部を卒業し、内科初期研修を経て、総合内科専門医として一般内科・呼吸器内科の診療に10年間ほど携わりました。一方その間に、肺がんの発生や抗がん剤耐性のメカニズムを解明する研究で博士号を取得しました。

2006年から渡米し、アメリカ国立がん研究所で6年間、その後ジョンズホプキンス大学医学部臨床腫瘍学部門において3年間、肺がんを中心に分子病理学的・病理組織学的研究ならびにトランスレーショナルリサーチ（基礎と臨床の橋渡し研究）を行いました。基礎研究者として、がん細胞培養・遺伝子改変マウスモデル・ヒト肺がん組織を使用しての研究に明け暮れました。

2015年に帰国し、京都大学病院病理診断科および関連病院で病理診断に携わりました。2019年からは大阪医科薬科大学病理学教室に在籍し、病理専門医・分子病理専門医・細胞診専門医として、診断・医学教育・がん研究を行ってきました。

このたび島根大学において、自身の活動をさらに展開出来る機会を頂戴し、心より感謝と喜びを感じております。新野大介教授が主宰される病理学講座病態病理学、また大学病院病理部と協力しながら、島根大学と地域の病理の発展に尽力してまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先 病理学講座器官病理学 事務室 TEL:0853-20-2144



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2025年
4 月
Vol.138

NEWS



CONTENTS

- ・新年度のご挨拶
- ・小児心臓血管外科 教授就任のご挨拶

表紙：病院長 椎名 浩昭
副病院長 左より 川上 利枝、金崎 啓造、大野 智、山崎 修、田邊 一明

- ・病理学講座器官病理学
教授就任のご挨拶

新年度のご挨拶 「持続可能な医療」



病院長 しいな ひろあき
 椎名 浩昭

平素より、島根大学医学部附属病院の運営にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。本年度は、以下の取り組みを中心に、持続可能な医療提供体制の構築を目指します。

1) 医師の偏在と高齢化が著しい地域への取り組み

島根県における持続可能な地域医療体制の強化には、県行政と連携しながら体制整備を進めることが重要です。島根県勤務医師実態調査の結果を踏まえ、特に医師の偏在と高齢化が進行している地域においては、地域の患者さんや医師を支援する医療ネットワークの構築を目指します。その一環として、医療 DX を活用した遠隔診療の活性化を、地域医療政策センターを中心に推進いたします。

2) 地域で安心して生活できる医療環境の整備

少子高齢化が進む島根県においては、高齢者の救急医療、小児医療、周産期医療の充実が不可欠です。加えて、がん医療や緩和ケアを通じて地域との橋渡しを行い、安心して子育てができる小児医療環境の整備にも注力してまいります。今後も島根県の保健医療計画に則り、地域の皆様のご要望を考慮しつつ、県行政と緊密に連携・協働しながら、過不足のない医療提供に努めてまいります。

3) 診療科偏在の空間的・時間的な是正への取り組み

新たに設置した「顔面・頭蓋底治療センター」は、多職種が連携する診療科横断型のセンターです。複雑な頭蓋底腫瘍や顔面・頭蓋底外傷症例を集約し、当院の特色を活かした高度な医療を提供しています。また、当センターにおける教育プログラムは、卒前・卒後の教育や研修に対応し、顔面・頭蓋底領域における診療科医師の不足という島根県の医療課題を解決するための行動計画の一環とも位置付けています。

当院の理念は、地域に貢献することを第一とした医療提供に基づいております。本年 3 月には山陰道の整備が進み、西部地域からの交通の利便性も向上いたしました。今後も地域の基幹病院や医療施設との連携をさらに強化するとともに、医療 DX や MaaS (Mobility as a Service) の活用を通じて、過不足のない医療提供を実現してまいります。

今後とも、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

小児心臓血管外科 教授就任のご挨拶

小児心臓血管外科 教授 なかた ともひろ
 中田 朋宏

2025 年 2 月 1 日付で、小児心臓血管外科の教授を拝命しました中田朋宏と申します。

私は 1999 年に京都大学医学部を卒業後、京都大学医学部附属病院心臓血管外科に入局し、先天性心疾患に対する外科治療を行う「小児心臓血管外科」を志しました。

まず成人心臓血管外科、腹部外科、麻酔科を研修した後、2002 年 11 月～ 2009 年 4 月まで静岡県立こども病院で、2009 年 5 月～ 2017 年 3 月まで母校の京都大学医学部附属病院で、2017 年 4 月～ 2018 年 10 月まで国立循環器病研究センターで、小児心臓血管外科医として数多くの重症患者さんに向き合い、また多くの執刀を経験してきました。

2018 年 11 月より当院の小児心臓血管外科の責任術者として着任し、数多くの患者さんの外科手術治療を行い、病院 NEWS 誌上でも度々ご紹介いたしました。非常に珍しい症例や困難な症例にも積極的に取り組んできました。着任後早いもので 7 年目に突入し、このたび教授に就任いたしました。

当院は山陰地方唯一の小児心臓外科手術を実施する施設です。これからも、小児科、麻酔科、産婦人科、成人心臓血管外科などの他科の先生方や、様々なコメディカルの方々と共に、チームとして先天性心疾患を抱える患者さんの外科治療に尽力いたします。

今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。





島大病院ニュース 2025年4月

お知らせ

消化器外科トピックス

手術の精度向上とダイバーシティ

消化器・総合外科 准教授 やまもと てつ
山本 徹

消化器外科では、主に食道・胃・小腸・大腸・直腸における悪性腫瘍（がん）に対する手術治療を行っています。消化管は食べ物の通り道ですので、可能な限り、機能（食べ物を送り、消化する）を衰えさせない様に手術をする必要があります。がん手術の最大の目的は、「全てのがんを取り切る」ということです。これらを両立させるのはとても難しく、腫瘍外科の究極の課題です。

近年、ロボット手術が保険適用となり、消化器外科領域では、すべての消化器がんがロボットで行えるようになりました。ロボット手術の最大の利点は、視野が良いことです。3Dで立体的に臓器や血管を見ることができるだけではなく、手ブレがないために、より細かな組織を見分けられるようになります。どんなに良い道具や技術を持っても、“見る”事ができなければ何もできませんので、ロボットの最大の利点を活かすことで、より繊細な手術（細かな血管や神経を傷つけずに“がん”を切除する）が可能となります。臓器機能の温存と確実な“がん”切除という究極の課題解決が現実味を帯びてきていると感じます。

一方、現在、日本の医療が抱える問題として外科医の減少が挙げられます。その半面、女性外科医の割合は増加していますが、業務形態の特殊性（長い労働、拘束時間など）から、なかなか活躍できないのが現状です。そのような中で、島根大学消化器外科では、女性外科医が第一線で活躍しているのが特徴です。先のロボット手術は患者さんだけではなく、術者にも優しい手術法（座った姿勢での手術や機械のアシストなど）ですので、手術の高精度化とともに、外科医療の中でのダイバーシティの実現に向けた追い風となっています。女性ならではの気遣いや感覚などは、外科治療においても重要な役割を果たす事は疑いの余地がありません。

引き続き、島根大学 消化器・総合外科では、「多様な長所」を活かしながら、より良い医療の提供を行っています。“がん”のみならず、消化器疾患でお悩みの方は、当院、消化器外科へご相談ください。

女性外科医のみで行うロボット手術



ダビンチ術者



ダビンチ助手たち

問合せ先

外科外来 TEL：0853-20-2384
大腸疾患：山本 徹 胃・食道疾患：松原 毅



2025年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年4月

お知らせ

低栄養があればNSTにご相談ください

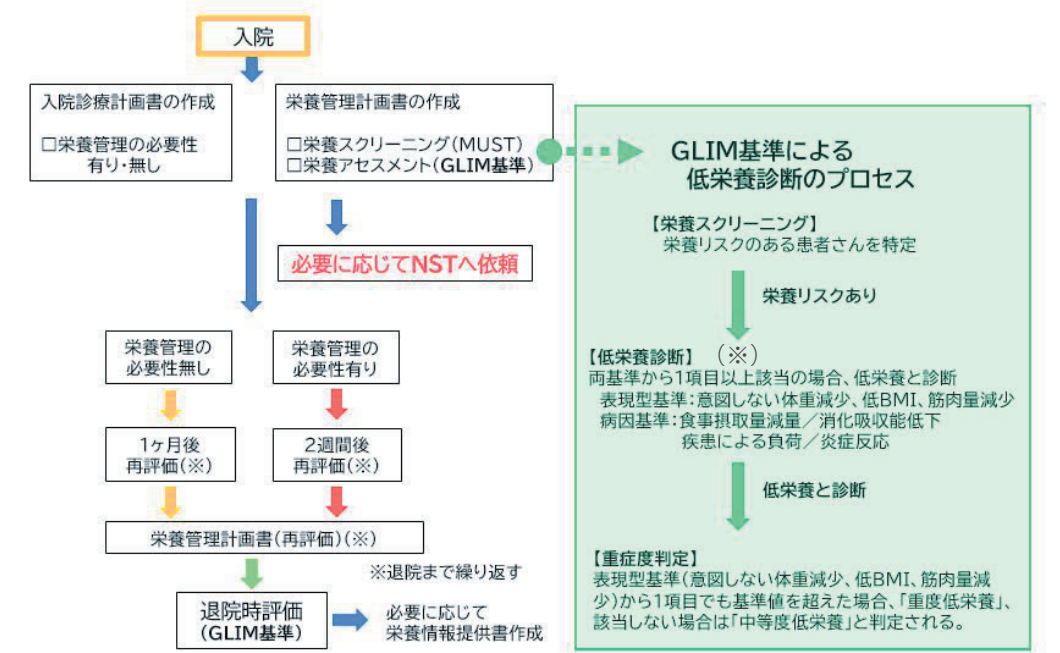
栄養治療室 栄養士長 ひらい じゅんこ
平井 順子
栄養サポートセンター センター長 やの しょうぞう
矢野 彰三

NHK連続テレビ小説「おむすび」でも紹介された栄養サポートチーム（Nutrition Support Team: NST）は、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリ療法士など多職種で構成され、栄養リスクのある患者さんに対し、栄養改善を目的としてチーム医療活動を行います。すべての入院患者さんは、世界の栄養学会によって新しく策定された Global Leadership Initiative on Malnutrition (GLIM) 基準に基づいて栄養評価が行われ、中等度以上の低栄養（※）がある場合には NST 活動の対象となります。

4月より岩下 義明先生（救急・総合診療センター）が加わり、田中 航先生（高度外傷センター）、矢崎 友隆先生（肝臓内科）と矢野センター長の4人体制で、NSTカンファレンス・回診を実施しております。

当センターでは、例年、医療スタッフ向けの栄養セミナーとNST研修会を開催しています。昨年度の栄養セミナーには、県内の4医療機関から計8名（管理栄養士2名、看護師4名、薬剤師2名）の参加がありました。この場をお借りして御礼申し上げます。今年度も実施予定ですので、特にNST専門療法士を目指す方はお早めにお申し込み下さい。

栄養状態は手術や化学療法などの効果にも大きく影響します。栄養治療はすべての病気における基本的な治療と言えます。共に患者さんを支えていけるよう引き続き努めて参る所存です。今後とも当院のNSTをよろしく願ひ申し上げます。



GLIM基準に基づいた当院の栄養管理手順（一部改変）

問合せ先

栄養治療室 TEL：0853-20-2074 nst@med.shimane-u.ac.jp
(栄養セミナー)
総務課企画調査係 TEL：0853-20-2019 mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp



2025年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2025年度 栄養セミナー(学外向)

栄養管理に必要な栄養評価、経腸栄養、点滴などについて学びます。みなさまのご参加をお待ちしています。

場所:みらい棟4Fギャラクシー
講師:矢野 彰三先生(栄養サポートセンター長)



日程	時間	内容
6月4日	16:30~17:30	栄養障害例の抽出・早期対応
7月2日	16:30~17:30	栄養療法に関する問題点・リスクの抽出
7月2日	17:30~18:30	栄養療法に関する合併症の予防・発症時の対応
7月30日	16:30~17:30	経腸栄養・経口栄養のプランニングとモニタリング
7月30日	17:30~18:30	栄養薬剤・栄養剤・食品の選択・適正使用法の指導
8月13日	16:30~17:30	経静脈輸液適正調剤法の習得
8月27日	16:30~17:30	経静脈栄養のプランニングとモニタリング
9月3日	16:30~17:30	経静脈栄養剤の側管投与法・薬剤配合変化の指摘
9月3日	17:30~18:30	栄養管理についての患者・家族への説明・指導
10月29日	16:30~17:30	在宅栄養・院外施設での栄養管理法の指導
NST研修会(未定、参加無料)		経腸栄養剤の衛生管理・適正調剤法の指導、簡易懸濁法の実施と有用性の理解



●このセミナーに出席し病棟実習を行った方には、日本栄養治療学会(旧臨床栄養代謝学会)(JSPEN)の「NST専門療法士」認定に必要な「40時間の実地修練」が修了できます(JSPENのHPを参照:jспен.or.jp)。費用は、1回につき2,200円です。本セミナー参加希望の方は、事前に申込を受付けますので、お早めにご連絡ください。

問合せ先:総務課企画調査係(酒井) TEL: 0853-20-2019 Fax: 0853-20-2025
mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp 主催:栄養サポートセンター



島大病院ニュース 2025年4月

お知らせ

遺伝性多発性嚢胞腎の発症を防ぐ コレステロールの新機能発見について

生理学講座(環境生理学) 教授 きし ひろこ
岸 博子

常染色体顕性(優性)多発性嚢胞腎(ADPKD)は、両側の腎臓に嚢胞が無数に生じ、腎嚢胞の増大と腎機能の低下が年齢と共に進行し、60歳までに約半数が末期腎不全に至る難病で、根本的な治療法がありません。日本国内に約3.1万人の患者が存在し、約4,000~8,000人に1人が発症すると推定されています。

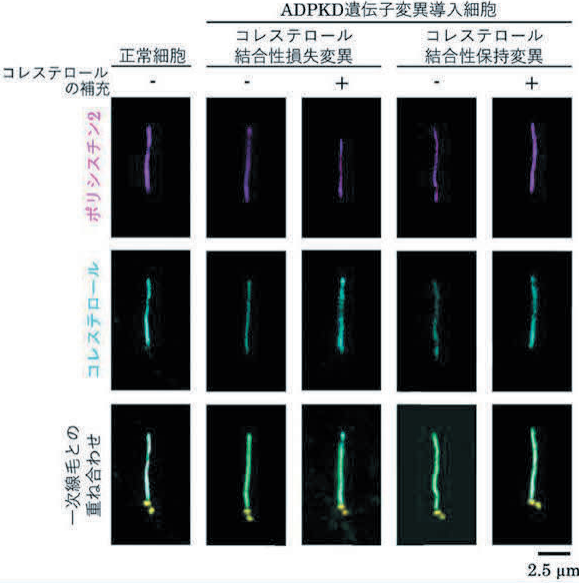
ADPKDの原因遺伝子から作られるポリシスチンタンパク質は、尿細管や集合管を形成する上皮細胞の「一次線毛」に局在し、イオンチャネルとして機能します。一次線毛は細胞表面に存在する「1本の毛」の様な突起構造物で、一次線毛を覆う細胞膜(線毛膜)にはコレステロールが豊富に存在する事が知られています。

今回、山口大学・広島大学との共同研究で、ゲノム編集技術を用いてADPKD患者で検出されたポリシスチン遺伝子変異を導入した培養細胞やマウスを作成・解析したところ、これらの変異導入細胞では、線毛膜のコレステロールが減少し、ポリシスチンタンパク質が線毛に集積できなくなる事が判明しました。更に、変異導入マウスは、多発性嚢胞腎や内臓逆位などの線毛病(線毛の運動や機能に障害のある遺伝性疾患)の症状を来しました。

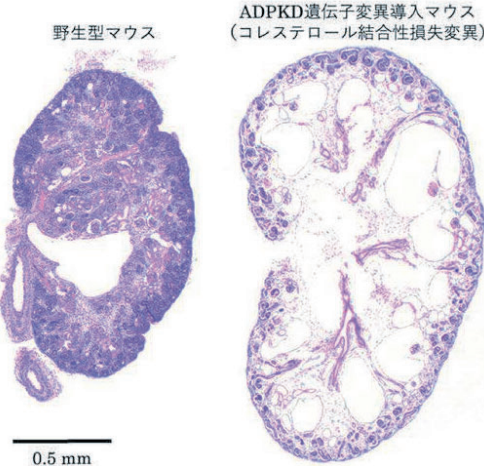
これらの結果から、コレステロールの低下によるポリシスチンタンパク質の集積・機能障害が線毛病の発症に関わっていることを初めて実証することができました。

本研究成果は、コレステロールを一次線毛に供給することがADPKD等の線毛病の発症予防に有用である可能性が高いことを示しており、線毛病に対する革新的な創薬研究への展開が期待されます。今後、本研究成果の社会実装に向け更なる研究に取り組んでまいります。

※本研究成果の詳細は、下記の論文に掲載されています。
Itabashi, T. et al. Cholesterol ensures ciliary polycystin-2 localization to prevent polycystic kidney disease. Life Sci. Alliance 8, e202403063 (2025)



(Itabashi, T. et al. Life Sci. Alliance 8, e202403063 (2025) より改変)
正常細胞の一次線毛には、コレステロールとポリシスチン2タンパク質が豊富に存在するのに対して、ADPKD遺伝子変異導入細胞の一次線毛では、コレステロール及びポリシスチン2タンパク質の集積が障害されていた。コレステロールとの結合性を保持している遺伝子変異導入細胞では、コレステロールの補充はポリシスチン2タンパク質の一次線毛への集積を正常細胞レベルまでに回復させた。



ADPKD 遺伝子変異導入マウスの嚢胞腎

問合せ先 生理学講座(環境生理学) 事務室 TEL: 0853-20-2113



2025年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年4月

お知らせ

がん患者・家族交流会を開催しています

がん患者・家族サポートセンター センター長 がん専門相談員

たむら けんじ
田村 研治
なんこう すずか
南口 涼花

がん患者・家族サポートセンターでは、2024年7月から毎月「がん患者・家族交流会」を開催しています。がん患者さん・ご家族が、がんピア・サポーター(*)と共にがんの正しい知識を学び、気持ちを共有し孤独感が軽減されることを目指しています。

2025年2月26日(水)には、がん専門相談員が第8回「がん治療とお金」というテーマで、高額療養費制度や傷病手当金について、ミニ学習会を行いました。その後の交流会で参加者より、「治療中の手続きや請求の理由が分かりました」「複雑で難しかったので、何かあればがん相談支援センターに行きます」との意見が出ていました。

これまでも様々なテーマでミニ学習会 & 交流会を開催し、参加者からは「気持ちを聞いてもらって楽になりました」「ピア・サポーターの体験談を聞くことができ、心強く感じました」「思い切って日頃の不安や愚痴を話せてよかったです」との感想が寄せられ、がん治療経験者同士だからこそ、気持ちが分かち合える時間になっています。

今後も開催予定ですので、より多くのがん患者さんに、ご参加いただけることを願っています。また、現在ピア・サポーターの養成研修受講者を募集しています。

詳細はがん患者・家族サポートセンターのホームページをご覧ください。

*がんピア・サポーターとは、がんを経験した仲間として、がん患者を支援するための研修を修了された方です。



交流会の様子

センター HP



問合せ先 **がん患者・家族サポートセンター** TEL : 0853-20-2518・2545

お知らせ
島大病院ニュース

2025年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年4月

お知らせ

222nm遠紫外線の眼への長期的な影響調査について

眼科学講座 教授 たにと まさき
谷戸 正樹

222nmの遠紫外線(Far UV-C)は、様々な細菌やウイルスに対する不活化効果で広く知られています。眼科学講座の研究グループは、222nm遠紫外線ランプを製造・販売を手がけるウシオ電機(株)と共同で、有害な紫外線が除去された222nm Far UV-Cの眼への影響を調査しました。

具体的には、222nm Far UV-C照射装置を当院の眼科診察室に設置し(写真1)、そこで働く医療従事者の紫外線による眼の障害の有無を36カ月にわたり追跡調査したものです。すでに報告した12カ月の調査結果と同様、36カ月の継続調査においても、目や顔面の皮膚に、急性および慢性のいずれの有害事象も認められませんでした(図1)。

本研究の結果は、222nm Far UV-Cの有人環境下での応用可能性に向けた重要な知見を提供するものであり、今後のさらなる研究や技術開発の基盤となることが期待されます。



写真1 眼科外来に設置された222 nm Far UV-C照射装置(赤の丸)

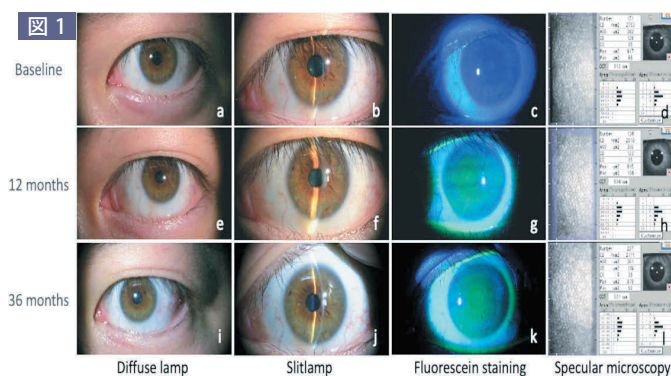


図1 眼科観察結果

この成果は2024年12月10日(火)付でPhotochemistry and Photobiology誌にて発表されています。

Kazunobu Sugihara, Sachiko Kaidzu, Masahiro Sasaki, Sho Ichioka, Ichiya Sano, Katsunori Hara, Masaki Tanito:
Ocular safety of 222-nm far-ultraviolet-c full-room germicidal irradiation: A 36-month clinical observation. First published:
10 December 2024 <https://doi.org/10.1111/php.14052>

問合せ先 **眼科講座 医局** TEL : 0853-20-2284

お知らせ
島大病院ニュース

2025年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年4月

ご報告

令和6年度 島根大学学位授与式を挙行了しました

学務課学生支援・総務担当

3月13日（水）に医学部体育館にて学位授与式ならびに学位記伝達式を挙行了しました。昨年度同様、来賓の方や保護者の方をお招きして開催しました（写真1）。

医学科・看護学科の各代表が学位記を受け取り、大谷学長が式辞を述べられ、谷口栄作健康福祉部医療統括監に島根県知事からの祝辞を代読いただきました。

また、成績優秀者への学長表彰も行いました（写真2）。式の最後には代表学生が「ジュネーブ宣言」の宣誓を行い、卒業生は医の倫理を守ることを誓いました（写真3）。

引き続き行われた学位記伝達式では、石原医学部長から卒業生全員に学位記を授与しました（写真4）。石原医学部長はお祝いの言葉の中で「医療人として最も大切にしてもらいたいことはプロフェッショナリズムです。プロフェッショナリズムとは、医療人としてふさわしい態度を貫く姿勢のことです。日々の診療において、自らの言動が患者さんの人生に与える影響の大きさを常に意識していただきたいと思います。」と激励の言葉を送りました。

今年度の卒業生は在学中にコロナ禍の影響を大いに受けました。厳しい状況の中で学びを継続するため、教職員と学生の間でたくさんの議論をし、学生が自主的に学んでいけるような体制を少しずつ確立していった世代です。式の最後には在学学生から卒業生に向けてサプライズで花束と記念品の贈呈があり、「先輩が確立した体制を引き継ぎ、島根大学医学部をより良いものにしていきます。」とメッセージを送りました。

問合せ先 学務課学生支援・総務担当 TEL:0853-20-2088



島大病院ニュース 2025年4月

お知らせ

「しまねCOMMONS」大幅アップデート！

環境保健医学講座 教授 名越 究
助教 たにぐち 谷口 かおり

医療等専門職向け、いまさら聞けないコモンディジーズの最新情報動画が満載の「しまねCOMMONS」（島根県委託事業）が大幅アップデートでパワーアップしました。疾患情報に加え、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）など最新の話題についても広くカバーしました（2025年3月末現在24テーマ109コンテンツ）。島根県庁主催の保健医療従事者向け研修会の動画もあります。

下記URLか二次元バーコードからアクセスしてみてください。

URL: <https://mops.netrecorder.jp/mameinfo/direct?page=sub2/top&ref=8>

お忙しい専門職の皆様のすき間時間のちょっとした勉強に活用していただければと思います。また、新タイトルのリクエストがありましたら、当講座までお知らせください。



新着情報が随時届きますので登録をお願いします

よくある病気以外にも医療安全、ACPなど、知っておきたい今どきのタイトル。安心の強力講師陣！院内研修用動画としても使えるんですよ。



問合せ先

環境保健医学講座ヘルスアップ担当 TEL 0853-88-3064 healthup@med.shimane-u.ac.jp



2025年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2025年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年4月

ご報告



島大病院ニュース 2025年4月

ご報告



ハイブリッド開催！

第15回 島根大学医学部附属病院 医療連携会議を開催しました

地域医療連携センター センター長 たなべ かずあき
田邊 一明

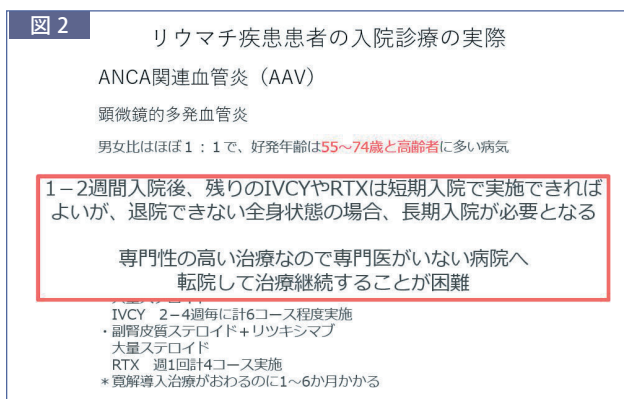
当センターでは毎年、地域や患者ニーズに応じた医療機関相互の連携強化を目的に医療連携会議を開催しています。今年度は、3月6日（木）に、当院会場とWEB会議を用いて開催し、新たに飯南町立飯南病院を加えた計15の施設から医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、事務職員等様々な職種の方にご参加をいただきました。

当日は、「地域医療連携の現状と課題」をテーマに、当院からは退院支援の実績報告のほか、近藤地域医療政策センター長より『「PHR」導入に向けて』と題しPHR（Personal Health Record）を活用した今後の構想について（図1）、そして膠原病内科一瀬診療科長より、リウマチ疾患患者への後方支援について、島根県の医療の現状を交えながら説明を行いました（図2）。

また、ご参加いただいた医療機関からは、各病院の取り組みや課題、当院へのご要望、出雲圏域を中心とした医療の現状に関する情報提供をいただく等、活発な意見交換がなされました。

当院では、本会議でいただいたご意見を受けとめるとともに、安定した医療を提供できるよう、医療機関の皆様とより連携を深め、地域医療の活性化を図って参ります。

今後とも、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



問合せ先 地域医療連携センター TEL：0853-20-2061



2月27日成長体験発表会

2月28日成長体験発表会

2024年度 新人看護職成長体験発表会 ～新人看護職の成長の共有～

看護教育支援室 看護師長 たけもと かずよ
竹本 和代

新人看護職は、社会人として、また看護職として初めての1年を過ごします。看護部では、この1年間での看護を振り返り、「私が関わった患者さんとの印象に残った看護エピソード」をテーマに2月27日（木）、28日（金）の両日に、新人看護職成長体験発表会を行いました。発表後、院内研修の様子や各部署の先輩看護職から新人看護職へのメッセージをスライドショーで上映しました。また、出身学校の先生方にもご参加いただき、メッセージを頂戴しました。そして今年度は、学内外の看護学生も参加できる機会としました。学生からは、「私も先輩のように患者さんに寄り添える看護をしたいと感じました。」「看護師として働きながら自身の看護を振り返ることが成長に繋がるということを学んだ」など、看護師として働くイメージにもつながっていました。

新人看護職からは、「同期たちの体験を聞くことができ、自分自身も学びになった」「同期の発表や先輩や大学の先生方のメッセージからまた頑張ろうと思えた」等の感想が寄せられました。また、聴講した先輩看護職からも「新人の看護場面を聞くことができ改めて学ぶものがありました。この1年でたくさん成長されて、とても嬉しく感じました。」「皆さんの貴重な体験を聞くことができ良かったです。1年の成長を垣間見ることができました。」等の感想が寄せられました。

皆で新人看護職の1年間の頑張りを共有し、自己の看護について思いを新たにし、改めて一緒に頑張っていこうと思える時間となりました。

問合せ先 看護部 TEL：0853-20-2478



2025年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2025年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年4月

ご報告



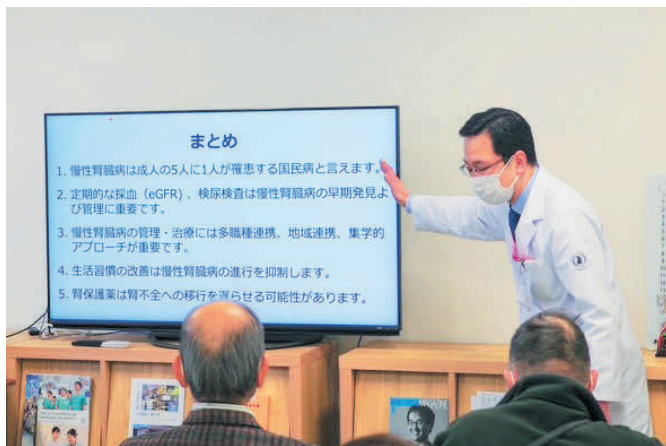
第1回腎臓病教室を開催しました！

腎臓内科 診療科長 血液浄化治療部部長

かんだ たけし
神田 武志

腎臓内科 副診療科長

よしの じゅん
吉野 純



腎臓病教室の様子

慢性腎臓病（CKD）は現在日本人の2,000万人（成人の5人に1人）が罹患すると推算されており、新たな国民病として認識されつつあります。CKDは心血管病発症や死亡リスクとも強く関連することが知られており、その対策が急がれています。

そこで、CKD対策の一環として、腎臓内科・血液浄化治療部は、2025年2月14日（金）、みらい棟1階みらいラウンジにおいて、当院のCKD患者さんを対象として、第1回腎臓病教室を開催いたしました。

今回の腎臓病教室では、「CKDの予防・管理」、「CKDの食事療法」、「腎代替療法」に関する話題を提供させて頂きました。登壇者は、腎臓専門医、看護師、管理栄養士、臨床工学技士から構成しており、CKD管理で最重要視されている多職種連携の概念を文字どおり体現した企画となりました。平日にも関わらず、予想を大きく上回る患者さんにご参加頂き、急遽、聴講席を増設する盛況ぶりでした。どの話題においても、活発な質疑応答が行われ、患者さんの声を拝聴し、CKDに対する不安や疑問にお答えする貴重な機会となりました。

現在、腎臓内科では出雲市と連携し、地域の医療機関、開業医の方々とCKD診療の地域連携強化に努めております。今後も、腎臓病教室などの企画をとおして、島根県におけるCKDの重症化予防・管理に尽力していきたいと考えております。

どうか引き続きのご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

問合せ先 腎臓内科 医局 TEL：0853-20-2122



2025年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年4月

ご報告



ボールの重さは1.25kg、ほとんど弾まないようにできています。



元ゴールボール日本代表の浦田理恵（うらた りえ）さん（中央）と、大会に参加したスサノオアイズのメンバー。ロンドンパラリンピックの金メダルと東京パラリンピックの銅メダルを見せて頂きました。

第2回眼科領域 ゴールボール大会で優勝しました！



眼科学講座 講師 かいづ さちこ
海津 幸子

ゴールボールは視覚障害者スポーツの一つですが、アイシェードという目隠しをすることで晴眼者（視覚障害のない方）も一緒に楽しむことができます。

相手のゴールに向かって、鈴の入ったバスケットボールと同じサイズのボールを投げ合い、かすかに聞こえる鈴の音を頼りに転がってくるコースを聞き分け、体全体を使ってボールを止めます。

2021年に結成されたゴールボールチームである島根スサノオアイズは、昨年度に引き続き、当院、高度医療推進等基金のサポートを受けて活動をしております。メンバーは眼科学講座の医師や視能訓練士などのスタッフがメインですが、2年前からは視覚障害者のメンバーも練習や試合に参加しており、同じゴールボールを楽しむ仲間として交流を深めています。

このような活動が少しずつ広がりを見せ、2023年6月には眼科医療従事者による第1回眼科領域ゴールボール大会を出雲市で開催することができました。そして2025年2月に第2回大会が東京都台東区で開催されることとなり、島根スサノオアイズも第1回大会優勝チームとして連覇を目指して参加しました。大会前日から日本海側で冬型の気圧配置が強まったため、当日移動予定だったメンバーの乗る飛行機が欠航するなどトラブルもありましたが、なんとか第2回大会も優勝することができました。

現在スサノオアイズと一緒にゴールボールを楽しむメンバーを募集しております。視覚障害の有無も、年齢も性別も関係ありません。ゴールボールに興味のある方は見学だけでも結構ですので、是非一度練習に参加してみてください。

問合せ先 眼科 TEL：0853-20-2284



2025年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年4月

お知らせ

山陰地方で唯一!!

脊椎内視鏡タンデム手術のご紹介

整形外科 医科医員 すぎはら 杉原 たろう 太郎

脊椎内視鏡手術は腰椎椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症などに対して行われ、脊椎後方からの神経除圧を目的としています。従来の脊椎手術と比較し、創が小さく筋肉・骨の切除も最小限で済むため、手術侵襲は小さくなります。術後疼痛は少なく、入院期間も比較的短くなる利点があります。しかし高い技術が求められるため、脊椎内視鏡手術が行われる施設は限られています。当科は脊椎内視鏡手術を2名の術者が同時に行うタンデム手術を、山陰で唯一行っており、この度ご紹介させていただきます。



タンデムとは、元来直列二頭立ての馬車のことであり、転じて2人乗りオートバイなどを形容する語として用いられます。わが国の脊椎内視鏡手術を確立した和歌山県立医科大学が、脊椎複数病変に対して、2名の術者が同時に手術を遂行する脊椎内視鏡除圧術をタンデム手術と命名したことに由来します。

高齢者の脊椎疾患は、多椎間の神経狭窄が関与している場合が少なくありません。入念な術前診察、的確な診断をもとに手術計画を行います。これまでの病変が3椎間以上に及ぶ場合には時間の制約上、従来のオープン手術を選択せざるを得ませんでした。しかしタンデム手術はその制約がなくなり、3椎間以上の低侵襲手術が可能となります。

これからも、より低侵襲な治療を安全に提供できるように日々の診療に取り組んでまいります。

問合せ先 整形外科 医局 TEL：0853-20-2242

お知らせ
島大病院ニュース

2025年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年4月

ご報告

写真1



写真2



「内科が変わる、内科を変える」 ～内科の魅力向上プロジェクト2024～を開催しました

内科の魅力向上プロジェクト代表 おおしま なおき
大嶋 直樹 (卒後臨床研修センター 教授)

本企画は医学生、臨床研修医に県内の内科医療の現状を知ってもらい、未来を担う内科専門医を増やし育てることを目的に、2023年度よりしまね地域医療支援センターの研修・指導体制充実強化事業として行われています。

2年目となる2024年度は、内科学第一（内分泌代謝内科）金崎啓造教授の発案により新たな企画として“Medical Grand Round”を立ち上げ、内科各分野の先端知識を共有し、内科学の意義に関しても訴求しました。

具体的には、内科診療科に所属する若手医師、指導医がレクチャー、ケースカンファレンスを英語で行い、2024年5月内分泌代謝内科による「Diabetic Kidney Disease」で始まり、その後は7月消化器肝臓内科の「SMA Syndrome」、9月脳神経内科の「Alzheimer Disease and Mild Cognitive Impairment」、2025年2月呼吸器化学療法内科の「Cancer-associated Thrombosis in Lung Cancer」と続き、内科診療科の枠を越えて最新の知識を横断的に学びました（写真1）。また、医学英語教育学 岩田淳教授にもご協力頂き、臨床実習中の5、6年生のみならず1、2年生にも参加してもらいました。

そして、2024年10月15日（火）にはCaféラパンにおいて内科診療科合同説明会を開催しました（写真2）。前回に引き続き、始めに各診療科がブースに分かれて医学生・臨床研修医の皆さんと歓談をする時間を設け、途中では診療科ごとにアピールタイムを行いました。その後の2次会でも医学生、研修医、診療科長と一緒に交流を深めることが出来ました。

この2年間で、延べ450名の医学生、内科診療科医師にご参加頂きました。内科診療科では今後も大学病院・県内の内科医師確保に向けた取り組みとして一丸となって協力していく所存です。今後ともご理解、ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

問合せ先 内科学講座内科学第二事務室 TEL：0853-20-2190

ご報告
島大病院ニュース

2025年4月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

